



上：自分で染めた世界に一つだけのトートバッグを手に記念撮影。/右上：生の藍葉を使って染める「生葉染め」も体験。明るい水色に染まります。/右下：染める前に布をしばっている様子。ビー玉や輪ゴムを使って好きな模様を作ります。/中央下：藍染め液に浸しているところ。空気に触れるとすぐ藍色に。/左下：藍が植えてある花壇の前でお話を聞く子どもたち。



きれいな色が出てきた！

都市近郊×伝統 三芳の農業

都市近郊で伝統農業を受け継ぎ、日本農業遺産に認定されている三芳の農業。立地の良さを生かし、新鮮な農作物を多くの人に届けています。



子どもたちの声が響く旧池上家住宅。その庭先にも藍の葉が揺れていました。7月24日(日)に行われたのは三芳産の藍を使った藍染め体験教室。集まった10人の子どもたちは、藍の歴史や青く染まるヒミツなどを学び、染め物に挑戦しました。藍染め液に浸した布地を引き揚げると見事な藍色に。鮮やかに染まったトートバッグを手元に、子どもたちの笑顔があふれます。長い時を超えて旧池上家住宅を「三芳ブルー」が彩りました。

かつての三芳で生産された藍玉や藍色の糸は所沢方面に出荷していました。当時の所沢では「所沢紺」という織物の生産がさかんです。全国に出荷されていたといえます。多くの人々に三芳の藍の色を届けることができたのは、都市に近いという町の立地の良さも理由の一つとなっていたかもしれませ

ん。現在でもその立地は工業や農業などを支えるとともに、住みやすさという魅力になっています。

現代にもつながる三芳の藍の物語。歴史民俗資料館では、旧池上家住宅や藍に関する展示を見ることが出来ます。皆さんも三芳ブルーの歴史に触れてみませんか。

三芳ブルーの記憶を子どもたちへ



藍の作品を制作する一色さん。コロナ以前には子ども大学など各所で藍染めのレクチャーをしていました。「子どもたちに三芳の藍のことを少しでも覚えてもらえたら嬉しいです」と話します。(写真は令和元年の様子)



【写真】 藍染め体験教室で染めた作品を干す親子。夏の日ざしに染めたばかりの布地がキラキラと輝いていました。



三芳ブルーの記憶を未来へ 時を超えて蘇る藍の色

時代の波に流され、急激に衰退した三芳の藍。当時の面影がほとんどなくなった現在、その鮮やかな色を未来へ語り継ごうとする活動が行われています。

秋になるとピンク色の花を咲かせる藍。「公民館を訪れた人に『何の植物ですか』と聞かれるので藍のことをお話しています」と語るのは、ガーデンなでしこのメンバーで、自身も藍染めの作品を制作する一色玲子さん。時代とともに忘れられつつある「三芳と藍の物語」を多くの人に伝えています。

受け継がれる物語

爽やかな夏空の下、竹間沢公民館の歩道沿いには藍が青々と茂っていました。明治時代の終わりにはほとんど栽培されなくなった三芳の藍。その歴史を語り継ごうと、「ガーデンなでしこ」の皆さんが7年ほど前から育てています。



ガーデンなでしこの皆さんが竹間沢公民館で育てている藍。秋にはピンク色の花が彩ります。

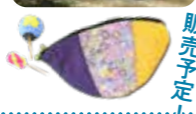
Topics

歴史民俗資料館で 昔の暮らしに触れよう

歴史民俗資料館では「藍大尽」と呼ばれた旧池上家住宅を見学することができます。ぜひ実際に訪れて当時の様子を感じてみてください。また、館内では9/3(土)から企画展「三芳とさつまいも」を開催！ハンドメイドのグッズも販売しますのでお楽しみに。



藍の文化財を展示中



ポーチなど販売予定